

## 【別紙】

一般社団法人 日本ボクシング連盟 令和3年度 第1回理事会別添資料  
2021.4.18（日）14:00～:16:23

会長挨拶： 議題が多く大変ですがよろしくお願ひいたします。

### 1 議事の経過の要領及び議案審議の結果

#### 1) 報告事項

#### 1. ドーピング違反事由の発生に関して

門田委員長：アンチ・ドーピング規則違反の可能性、暫定的資格停止という通知が来た。

- ・オリンピック日本代表候補選手（RTP/TPではない）
- ・2021年2月22日尿検体採取（競技会外検査）
- ・A検体よりフロセミド（特定物質）が存在する分析結果  
※フロセミドは利尿剤として使用される。あるいは、ドーピング物質を洗い流す作用があり隠ぺいする作用がある。
- ・2021年3月25日JADAより通知、暫定的資格停止となっている
- ・3月25日～4月9日に弁明書を提出する権利が与えられており、違反が決定したわけではない。
- ・話し合った結果、B検体分析、A検体の分析機関書類一式の写しは要求しない、弁護代理人は立てないこととなった。
- ・2021年4月9日弁明書提出
- ・現在、JADAからの「責任追及文書」待ちの状況である。

#### ○対応

- ・3月26日アスリート委員会成松委員長へサプリメント摂取に関して警告を行った
- ・4月7日日本代表選手を対象にアンチ・ドーピング講習会開催した

#### ○考察

- ・本人に確認を取ったところ、フロセミドを意図的に摂ったことはなく、体重の調整もなく、そういった物質を摂る必要もないと弁明しているため、サプリメントの汚染が原因と考えられる。実際にサプリメントを複数摂取していて、それをすべて分析すると経費が非常にかかることもあり、本人が希望しないことからサプリメントの汚染と推定している。
- ・本人は日本代表がサプリメント摂取禁止とは知らなかったと発言している
- ・本人は当初、潔白を証明すると考えていたが、証明することはあり得ない。ドーピング物質が検出されたことは、本人の責任になる。
- ・コーチは資格停止処分の理解が不十分であった（練習も、ボクシングに関係することはすべて禁止。一人で練習することは可。）
- ・コーチ、指導者の監督責任を連盟としてどのように対応するか、再発防止のため

にどうするかを考えなければならない。

○アンチ・ドーピング委員会のこれまでの取り組み

- ・2019年11月19日日本代表選手に対してサプリメント摂取禁止を告知
- ・サプリメント摂取のリスクには繰り返し説明している

内田会長：正式な裁定は来ていないのか

門田委員長：まだである

内田会長：コーチ、監督等の処分については、正式な結果が出てからになる

小山田理事：過去に指導者が処分を受けた事例はあるのか

門田委員長：JADAからの指導者に対する処分はない、法的な処分はない。最終的には本人の責任であるので、そこを組織的に道義的責任としてどう考えるか

小山田理事：継続して講習をしていくこと、啓発啓蒙していくことが一番大事なことであり、強化委員会、アンチ・ドーピング委員会を含めて協力をしながら、常日頃から言い続けるしかないかと思う。

後藤理事：女子強化委員会からもアンチ・ドーピングに関する講習と共に、サプリを摂ってはいけないから食事で補える栄養に関する講習会も引き続きお願いしたい。

門田委員長：アンチ・ドーピング委員会とスポーツ科学委員会がセットになって講習会を行っていきたい。ただ、選手側、指導者側から求められないとなかなか出来ない。押し付けることは出来ないので、求められたら協力をする。

内田会長：監督、コーチがサプリメントを日本連盟が禁止していることを知っていたか？

小山田理事：私は認識していて、駒澤の選手や担当の選手、強化選手（男子）には伝えている。

内田会長：知っていたうえで、選手がそれを摂取していることを黙認した監督、コーチには、日本連盟として何らかの対処をして行かなければならない。

## 2. 新採点システム構築状況

林田理事：10ポイントマストシステムではなく、加点方式で考えている。

採点パッドのA、B、Cの三つのボタンがあり、ヒットした選手のAボタンを押せば1点が加点される。卓越した技術、戦術にはBボタンを押す。例えば、ダウンを奪ったとか、効果的なコンビネーションを決めたとかになるが、これは3点が加点される。レフリーのワーニングに同意した時にはCボタンを押す。レフリーがワーニングを取らなくても、ジャッジがワーニングと判断した時にはCボタンを押す。これは2点が減点される。レフリーのワーニングを認めない場合にはCボタンを押さない。試合終了後、各ジャッジの得点の多い方が多数決法で勝者となる。同点の場合には、主導権を持っていた選手を支持する。それでも同点の場合は、より優れたディフェンスをしていた選手を支持する。採点器は、ビデオカメラで録画してスロー画像などを取り入れることを考えている。DTD席の後ろに採点室を設けて、観客から見える場所で採点し、コーナーポストやレフリーに広角カメラを装着して、Wi-Fiで送信した多角的映像で判定を確認できるように考えている。

(2020.11.14現在の報告)

(質疑なし)

### 3. 公式試合用グローブ公認の仕組み

林田理事：公益化に向けて、グローブ、ヘッドガードの独占的な販売状況を改善するため、審判部で管理することになった。

連盟で公認シールを販売し、公認料を徴収する。

販売会社は、販売個数を管理する様式にて審判部に報告し審判部が管理する。

連盟に入る公認料は、グローブにおいては、小売販売が 6,000 円、卸売りが 3,000 円。ヘッドガードにおいては、小売販売が 5,000 円、卸売りが 2,500 円。

金額の設定については、以前のままで変更はない。

2021. 4. 10 現在の販売状況は、卸売りはグローブが 20 個、ヘッドガードが 20 個、小売りはグローブが 56 個、ヘッドガードが 30 個となっている。

(質疑なし)

### 4. その他

#### ・ユニフォームガイドライン

林田理事：競技規則第 30 条 競技者の服装について、ここに記載されている内容ではわかりにくいという質問が日連事務局に多く寄せられるということでガイドラインを作成した。シャツ前面の製造企業ロゴの大きさ  $30\text{ cm}^2$  は A I B A の規定で、I O C と J O C のオリンピックに関わる大会については、 $3\text{ cm} \times 3\text{ cm} = 9\text{ cm}^2$  で小さくなるので、A I B A 規定を採用している。所属チームのマークとか、名前の面積は、ガイドラインに記載される面積以内であれば問題ない。詳しくはガイドラインを見て欲しい。

(質疑なし)

#### ・全日本 U J 大会について

池端理事：総務委員会からです。今年度 3 月の全日本 U J 大会について、2020 年 6 月の理事会、7 月の総会で決議された内容であるが、今年度の登録が始まってから問い合わせが多いので、改めて決定事項として再度周知する。3 月の U J 大会であるが、参加者が増大しており大会運営的な問題や、ワンマッチゲームのための組み合わせ上の問題や、各自治体の表彰対象から外されるなどの問題があり、大会自体の見直しが必要となったため、中学 1～2 年生のみの大会とし、次年度の U J 王座決定戦のシード権を獲得するための大会とすることにした。

この結果、次の王座決定戦からは、2 日間の日程とし、2 名以内のシード選手を決めるが、そのシード選手と西日本、東日本の代表となった 4 名で王座決定戦を行うこのことを、早い段階で都道府県に周知していただきたい。

小学生の全国大会は、夏の王座決定戦だけになる。(ブロック大会までは開催しても良い。)

(質疑なし)

#### ・AIBA ユース大会について

仲間専務理事：ポーランドで開催中の A I B A のユース大会に 9 名の選手を派遣している。同行スタッフの 1 名がコロナ陽性者となった。出国前は P C R で陰性だったが、ポーランド入国後から微熱があるので隔離して経過観察していたが、2、3 日の経過で微熱が続くということで P C R 検査をしたら陽性であった。陽性が判明するまでに 4 試

合あって2勝2敗、残り5人が控えていたが、残念ながら日本選手が全員隔離となり、16日2試合、17日3試合が残念ながら不戦敗となった。本日、1回戦を勝った堤選手の試合が月曜日にある予定だが、隔離の解除が本日、日曜日朝のPCRの結果を見て解除となる予定で、健診計量に間に合わない心配があったが、AIBAと交渉して問題なく試合に出場できることとなった。選手全員のPCR結果は陰性であった。感染した1名に関しても症状は安定しており、既に解熱もしている。1名の帰国が遅れる。

各マスコミからも問い合わせがあったが、記事の内容を確認させていただいてから発表して下さいとお願いした。選手の保護者には連絡している。

山本理事：今回の派遣について、選手の選考も全く知らなく、LINEの投稿で知った。突然、マスコミからこのような話を聞くと驚き切迫した不安が先行してしまう。今後、考えて頂きたい。

仲間専務理事：情報共有しようと考えていたが、時差があるのでなかなか難しい。情報が揃ったのが土曜日だったので、理事会できちんと話をしようということになったが、直前にマスコミから連絡があり、隠すのもいけないから話したという経緯である。医事委員長長の岩尾先生にも確認ができた時点で報告している。

## 2) 決議事項

### 1. 公益法人認取得のための各種規程の制定・改定についてなど（資料1）

仲間専務理事：公益法人認定のために内閣府からの指摘事項として、事務局運営に係る規程の整備とガバナンスコード不適合項目の改善状況を報告することの2点がある。詳細は富岡マネージャーが説明するが、監事監査規程について制定は理事会で行うが、改廃は監事が行うという矛盾が生じているので全て理事会に統一したい。また、この他にも内容の変更に伴わない軽微な変更については執行部に一任願いたい。

泉監事：統一してもらえれば問題ない。

富岡マネ：内閣府から現在の定款についても軽微な文言の修正等が指摘されているので整備をしたうえで後日お示ししたい。

仲間専務理事：コンプライアンス委員会を新設する必要がある。これについては後日、書面決議でお諮りしたい。

石橋理事：監事監査規程で14条評議委員会とはどういう意味か。

富岡マネ：誤植です。失礼しました。総会と修正します。

吉沼理事：就業規則で「連盟」を「日連」に統一する。また10条（1）土曜日、日曜日とあるが給与規程第7条2（4）法定外休日（5）法定休日の割増率が違うためハッキリさせる必要がある。同じく就業規程第36条4と5で休職期間を「連盟がその都度決定する」とあるが具体的な記載が必要ではないか。出張規程第3条2の「部長」は変更する必要がある。

仲間専務理事：ただいまご指摘をいただいた点の変更を行うことも含め特にご意見がなければ一括で承認をいただきたい。

坂巻議長：各種規程の制定・改廃について反対の方は挙手をお願いします。（反対意見なし）内容を変更しない軽微な文言等の変更は執行部に一任することに反対の方は挙手をお願いします。（反対意見なし）

### 2. 審判部規定の再改定について（資料2）

（質疑なし）

3. ブロック女子委員会（仮）の設立について（資料3）  
（質疑なし）

4. ランキングの決定方法について（資料4）

小山田理事：これは理事会だけで決定する事項なのか。

点数の内訳について、リーグ戦全勝と社会人チャンピオンが同点であること、2部や3部の得点が高すぎる。国体は1人の力で出場できるものではないこと。社会人選手権は都道府県の代表で出場できるが、全日本選手権はブロック代表にならないといけないこと。など点数の配分が不透明なので強化委員会で案を作りたい。

菊池理事：理事会の決定で決めるものだと思う。そのなかで色々な議論があるべき。リーグ戦を点数化することに疑問を感じる。

井崎理事：強豪校に行かないと点数がもらえない仕組みはフェアではない。普及を目的とするならば地方の選手にも平等にチャンスがあるべきだと思う。

佐藤義理事：ボクシングはインカレが過去にあったのか。平等性を確保するには必要かと思う。

小山田理事：関東リーグと関西リーグの王座決定戦しか行われていない。難しいとは思いますがインカレのような大会は必要だと思う。

仲間専務理事：普及のためには地方の選手にもチャンスがあるべきだと思う。

社会人選手権のポイントを低くすると出場者のモチベーションとレベルが下がる心配がある。普及を妨げない範囲で現状に合わせた見直しを定期的に行うことも必要かと思う。客観的に公平性が保たれることが重要である。

小坂理事：強い選手が2部や3部にいることもある。全日本選手権しか出場する機会がなかったら優勝してもポイントが追い越される可能性もある。全日本選手権のポイントをもっと高くするべきではないか。

中村理事：リーグ戦はレベルも高いのでポイントとして評価されるべきかと思う。また、このランキングが国際大会の選考基準となることを周知することも必要だと思う。

坂巻議長：ポイント制でランキングを作成して代表選考を行うということ自体は賛成していただけるか。

小山田理事：なかなか点数だけで決められない部分もある、点数の配分について再考する必要がある。点数の配分が適切であれば反対ではない。今回の案を強化委員会で共有して新たな配点を考えたい。

坂巻議長：ポイント制を導入してランキングを決定し、合宿や国際大会に参加するメンバーの選考を透明化することについて反対の方は挙手をお願いします。

（反対意見なし）

ただし、ポイントの配点については強化委員会や普及委員会の意見を集約して次の理事会で提案することについて反対の方は挙手をお願いします。

（反対意見なし）

5. 令和3年度の全日本選手権の開催地について（資料なし）

仲間専務理事：令和3年度の全日本選手権は、墨田区で開催することとなっている。コロナの収束も見えない状態であるが、墨田区と交渉を進めている。このことについて、審議としてあげる話もあったが、何か決めることがあればということで決議事項としてあげた。率直な意見をいただきたい。今年のことだけでなく、来年のことも含めて意見をいただきたい。

菊池理事：私も準備委員会の一人であるが、率直に言うと、関東連盟、東京都連盟の協力が得にくいのではないかという意見が出ている。一向に話も進んでいない。このままでは、何も決まらずズルズルと行ってしまうので、振出しに戻した方が良い。この話は、アスリート委員会から東京で開催して欲しいとの強い希望で、選手の声に応えた形で実施することになったはずである。今では実行委員会も機能しない状態である。関東連盟、東京都連盟の協力なしでは実行不可能である。このような状態であれば、総会でなぜ不可能なのかということや、東京で開催するのかどうかを踏まえて話し合わないと飛んでもないことになるので、今度の総会で絶対に結論を出す必要がある。

池端理事：関連して、昨年度の鹿児島国体が開催できなく、佐賀国体の前の年に移動した。今の国体リハーサル大会は、全日本社会人選手権大会とジュニア女子大会となっているが、鹿児島が国体のリハーサルとして全日本を開催したのに、またそのリハーサルを開催しないといけないのかという話が九州の中であった。佐賀国体の時には、ボクシング競技が開催されない年だが、リハーサル大会としての全日本社会人選手権とジュニア女子大会を開催しなければならないのかという話が上がっている。来年だけでなく、先を見通した計画を立てないといけない。こんままだと、何も決まらないままになってしまう。

仲間専務理事：6月の理事会、総会でどこが開催するのかを決めたので間に合うのか。

中村理事：今年度は、今から全日本を別のどこかで開催するにしても会場の確保が出来ない。今年度は、墨田区で開催するしかない。

菊池理事：総会で、東京都で開催すると決まったのだから、変更はあり得ない。しかし、打ち合わせの会議も一向に進まない。何故出来ないのかを、関東連盟と東京都連盟に明確に答えて貰い、全国の皆さんを納得させるしかない。6月に決めたとしても、体育館は1年前からの予約が必要なので、別の場所で開催するのは至難の業になると思う。総会での決議事項をひっくり返そうとするのだから、説得力のある説明をしていただく必要がある。

吉沼理事：実行委員会は存在しているのか？フワッとしたLINEグループがあるだけだが。実行委員会に誰が居て、どんな構成になっているのかわからない。実行委員会が創設された連絡もない。これはどうなっているのか。日本連盟主催で、プレ国体ではないから、実行委員会が日本連盟の中に作られて、細かい作業がされてそれぞれに役割分担が依頼されるのではないか。今までの実行委員会は、プレ国体なので地方自治体が担っていたわけだが、実行委員会が創設されて承認されているのか。まずそれがわからない。連絡もいただいていない。

仲間専務理事：実行委員会については、関東連盟と東京都連盟から、しかるべき人を出すと連絡をいただいたと思う。しかるべき人に連絡が来ていないと頃で止まっているのが現状だと思う。

中島理事：関東連盟は、誰が言ったのか。

仲間専務理事：関東連盟に関しては、会議に出席されなかったでしょうか。関東連盟からは出して頂きますという話を、中島さんご自身は聞かれてなかったのか。

中島理事：聞いていない。

仲間専務理事：LINEグループで、全日本について話しをしましたということで、内容はシェアしているはずだが、確認されていないということなら困ったなということになる。

吉沼理事：そのLINEは、どうしようかという話し合いの会だった。基本的には、実行委員会が作られると思っている。どんなメンバーで、どういう割り当てがあるのかと、或い

は協力体制があるのかと思っていた。私も、プレ大会で実行委員会の経験があるが、実行員会が作られて段階的に進んでいくのが常であったので、話し合いの会が実行委員会だとは思っていなかった。

関東で開催するから、関東連盟と東京都連盟がずっとやるわけにはいかない。各地を回るパターンとは違う。だから、日本連盟が早急に実行員会をしっかりと作ってほしい。それで詰めるべきものを詰めていくと私は思っている。

坂巻議長：本日、実行員会を作るといことはどうか。もう決めて行かなければ、困るのは子供たちだと思う。選手のために、皆が仲良く輪を作って大会運営を進めて行くことが大切だと思う。

吉沼理事：本日はどうかと思うので、週明けにでも実行が担保できる組織、人員体制を提示していただきたい。

坂巻議長：実質的に、東京都に負担が強られる感じがする。吉沼さんがそのメンバーを募ることは可能か。

吉沼理事：私がどの立場なのか。その位置づけをしていただきたい。受けられることと、受けられないことがある。それをハッキリして貰いたい。国体がらみだと、県レベルから委嘱状が出て、仕事を休める。国体から外れたことによって、お金だけでなく人員の収集も非常に大変になる。そこら辺を早く明確にして貰いたい。これが墨田区ですと続いたら、同じような負担、同じような東京のメンバーに強いるわけにはいかない。そこらへんも、長期的な戦略も含めて東京、関東の近場の広域も含めて、なるべく力を合わせていけるスキームを作っていただきたい。スキームを作るには、メンバーをしっかりしていただきたい。

菊池理事：東京でやるならば、関東連盟の中島理事、東京都連盟の吉沼理事に上層に立っていただき、陣頭指揮をとっていただきたい。

吉沼理事：日連の会長、副会長、専務理事も含めて、是非加わっていただきたい。出来ることはして行く。今どう動かなければならないのか、何が足りないのか、足りないところをどうやって行くのか、ストーリーを明確に作って行かないと墨田区での大会は出来ないと思っている。

中島理事：大会そのものが、日本スポーツ協会から通達があって、各県の行政が大会をやって来た。一昨年に菊池理事が動いて、これからは全日本を墨田区のレガシーとしてやっていくとなった。予算は大丈夫だと言われる中で、人は大丈夫かなと思っていた。社会人が国体のプレ大会となったが、社会人が東京に回ってきた時、その時は当然、日本連盟の主導のもとに、関東も都道府県も今までの全日本のようにやるようになると思う。今回は、そういうことでなく日本連盟が主体となって開催する。我々が一番困るのは、お金は日本連盟が用意してくれるかもしれないが、人はどうするのか。国、県からの派遣依頼書があれば仕事も休めるが、そういった物がないのに強制で休ませられない。これらを考えた時に、関東連盟の組織で受けて、皆にやれとは言えない。

菊池理事：私が動いてと言われたのは違う。アスリート委員会から上がってきた話で、皆さんで吟味して決定したことである。選手に寄り添って、ぜひ東京でやろうという話で皆さんが認めただいたこと。私も大賛成だったので、自分が出来ることは精一杯やろうと思っている。ただ、地元である東京都と関東連盟の御協力なしでは絶対に出来ないことなので、我々と力を合わせてやっていくことであり、皆さん協力してくれると思う。

中島理事：墨田区は、協力はしますと言ったが、支援は出来ないと言った。

全日本について、関東でお願いしますと一度も言われたことはない。日本連盟としてしっかり組織を作って、関東に理事がたくさんいるのだから、その方々の協力を得ながら具体的にやっていくべきだと思う。

菊池理事：総会に上げた訳だから、理事として皆さん合意をした。私が一人で皆さんにやってくださいと、何かをしたわけではない。現状を変えることは出来ないから、改めて力を合わせて前に進まないといけない。

仲間専務理事：関東連盟と東京都連盟の立場で発言されるのもわかるが、日連の理事として何とか成功させないといけないという責任が1/22ある。ポジティブな発言をしていただくと助かる。当然我々も協力するが、東京でやるなら実行委員長を吉沼さんがした方が指揮を取りやすいのではないかと思う。いかがか。

吉沼理事：東京都連の皆さんに相談しないといけないが、地方を回っている行政と共にやる大会ではないので、実行委員長はそれなりの人がやるべきである。

仲間専務理事：東京都連の立場ではなく、日連理事の吉沼理事としてお願いしている。

吉沼理事：実行委員会を立ち上げて立てた計画に基づき、個別に要請されれば検討する。

仲間専務理事：日連から人を出すとすると、理事で、責任を持てる人で、関東かつ東京で、大会のことに詳しくてとなると、吉沼さんが実行委員長としてふさわしいと考える。

吉沼理事：案を早く出して頂ければ、持ち帰って検討する。ここで返事は出来ない。

菊池理事：関東ブロック内の東京都であって、その周辺からも協力を得ることになる。大会会長は内田会長になると思うが、大会の副会長は中島さんで全体を見ていただく。顔に泥を塗らないように全員が力を合わせて進むべきではないか。

中島理事：私はお断りします。日本連盟のために出て行けと言われた。ここに戻ってはいけない。日本連盟主催なら、専務理事が実行委員長である。専務理事を中心にやっていくべきである。

仲間専務理事：申し訳ないけど、大会運営の経験がない。

内田会長：大会を中止することは出来ない。頑張って成功させるしかない。この理事の中から実行委員会のメンバーを数名決めて、取り組んでいく。

菊池理事：実行委員は理事全員ではないか。

内田会長：話し合いが出来ないので、現実味がない。

仲間専務理事：関東連盟から中島さん、東京都連から吉沼さん、日連から私とあと数名入れて作る。

中島理事：専務理事からご指導を受けて協力を求められたら、出来ることはする。

仲間専務理事：中島さん、吉沼さん、豊田事務局長、私が入って、そこで詳細を決めるということかどうか。

吉沼理事：日連理事として入ってやるべきことをやる。

中島理事：決定ではなく話し合いをする。

仲間専務理事：この話は、持ち帰りとする。

以上